

# 研究だより

令和6年11月28日(木)  
東久留米市立第十小学校  
研究部

## 第3回研究授業 算数「三角形と角」 3年1組

ねらい 同じ大きさの二等辺三角形や正三角形を敷き詰めながらいろいろな形を作る活動を通して、二等辺三角形や正三角形の特徴や性質の理解を深めることができる。

### ① ICT機器の効果的な学習場面

- (1) 児童の考えを全体で共有する場面において「発表ノート」を活用して行う。
- (2) 図形操作を行う場面において、デジタル教材を活用し、スムーズかつ短時間で行えるようにする。
- (3) 自力解決の場面において、デジタルの複製機能生かし、自分の考えを効率よく表現できるようにする。

### ② ICT機器の効果的な学習方法

- (1) 図形操作や発表場面で、ねらいを達成するために有効であるときのみICT機器を活用し、コンパスや定規を使っの作図などは、手作業での操作を身に付けさせるなど、めりはりをつけてICT機器を取り入れることが学習効果につながる。
- (2) デジタル教材を使うことで、文字や図の得手不得手が影響しないことや、考えを保存しやすいことなどから、自分の考えを進んで表現しようとする意欲を高めることができる。また、「違い」のみがクローズアップされるため、視覚的に比較しやすく、理解につながりやすい。

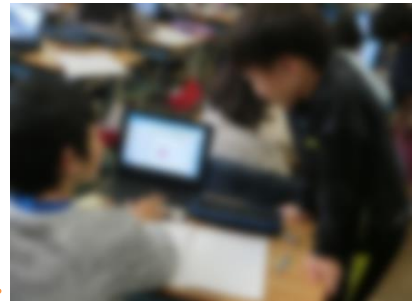


全員が本時のねらいに向かえるよう、前時までに積み重ねてきた学習を丁寧に振り返りました。

一人で行き詰まってしまう児童は、友達と一緒に考えたり見合ったりすることで、全員が活動に参加し学習を進めていました。

発表ノートでは、指一本で「移動」「回転」「くっつける」などの操作が簡単に行えるので、すぐに操作を覚え、自由に考えを表現していました。また、友達の考えを参考に自分の考えを広げる姿も見られました。

自分の考えを発表する場面では、自分の考えを聞いてほしいという、生き生きとした表情が見られました。



講師の先生からは、「チャレンジ精神があり、研究授業としてよかった」とのお褒めの言葉をいただいたと同時に、児童がじっくりと取り組める時間を確保することの重要性と、教員同士で話し合いながら、効果的な活用場面や適したアプリを決めていくことが大切であると学びました。また、多くの授業実践事例を紹介していただき、ICT機器は、活用方法次第で学習の幅を広げていくことができると実感しました。

講師の先生がおっしゃっていたようにICTが『I（いつも）C（ちかくで）T（たすけになる）』存在としての学習道具になるよう、教員同士意見を出し合いながら活用の方法を考えていきたいと思ひます。